

## かつてない事故の対応 健康対策

### ホールボディカウンターをいち早く導入

市では、内部被ばくへの不安の解消と健康管理につなげるため、平成23年12月1日からホールボディカウンターによる測定を開始しました。

えぼかに取り付けられたホールボディカウンターは、椅子に座って測定するタイプで、約5分間をかけて体内に放射性物質が取り込まれていないかどうかを確認するものです。

また、測定した結果に基づいて、成人では50年間、子どもでは70歳までに体内から受けると思われる内部被ばく線量（預託実効線量）を推計するものです。



約5分間、座った状態で測定します。子どもたちはアニメなどを見ながら測定することができます

### 検査は継続中

平成25年12月までに市民の皆さんの19,196人の検査が完了しています。これまでの検査で預託実効線量が1ミリシーベルトを超える方はいませんでした。



(右) 測定前には衣服などに放射性物質が付着していないか専用のサーベイメータで測定します  
(左) 測定後、すぐに検査結果をお知らせします

### ホールボディカウンター検査受検者数（のべ人数）

区分	未就学児 とその 保護者	小学生	中学生	高校生	未就学児 とその 保護者	一般 市民	復旧工事等 従事者	妊婦	計
平成23年度	873	501	389	333	939	0	0	81	3,116
平成24年度	36	1,148	816	519	317	7,986	416	43	11,281
平成25年度（12月末まで）	333	1,823	937	122	0	1,584	0	0	4,799
合計	1,242	3,472	2,142	974	1,256	9,570	416	124	19,196

### 子どもと妊婦さんのためガラスバッジによる積算線量測定



平成23年9月から中学生以下の子どもと妊婦の皆さんを対象として、ガラスバッジによる外部被ばく検査を実施しました。平成25年8月まで3カ月ごとに計6回検査を実施し結果は、次のとおりとなっています。

原発事故から2年半が経過し、平均値は確実に下がってきています。このことから外部被ばく線量も着実に減っていることがわかります。

単位：ミリシーベルト／3カ月

平均値	平成23年度	9月・10月・11月	0.42
		12月・1月・2月	0.34
平成24年度	平成24年度	6月・7月・8月	0.27
		9月・10月・11月	0.23
平成25年度	平成25年度	12月・1月・2月	0.20
		6月・7月・8月	0.19
		9月・10月・11月	0.16

### 高校生以上の方のために電子式積算線量計を貸し出し

平成23年9月から、高校生および同年代の方を対象に、1週間から2週間の間で電子式積算線量計の貸出しを始めました。また、同年10月からは50歳未満の方を対象として、さらに同年11月からは、50歳以上の方を対象に貸出しを開始しました。

平成25年10月8日までに貸出しをした561人の結果は次のとおりです。

単位：ミリシーベルト

区分	平均	最小	最大
自然放射線量による寄与を含む放射線量	1.66	0.56	4.75
原発事故に起因する年間線量の推計値	0.92	0.00	3.59

区分	1.00未満	2.00未満	3.00未満	3.00以上
測定値の分布	294人 52.15%	235人 42.11%	28人 5.02%	4人 0.72%



### 甲状腺検査を3歳以下の子どもに実施

平成23年11月から3歳以下の子どもを対象に甲状腺の超音波検査を実施しました。白岩診療所および谷病院の協力を得て、空間線量の高い地区より開始しました。

検査の結果、異常が認められた方はいませんでした。

区分		人数	
1.対象者数（3歳以下）		816	
2.受診者数		756	
3.判定	A 1	744	
	A 2	11	
	B	1	
	C	0	
	内訳	結節	5.0mm以下（A 2判定） 5.1mm以下（B判定）
	嚢胞	20.0mm以下（A 2判定） 20.1mm以下（B判定）	5 0